

令和元年度 札幌南三条 病院指標

年齢階級別退院患者数

年齢区分	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～
患者数	-	25	21	16	51	311	886	1134	336	-

10未満の患者数は(ハイフン)を使用しています。
 退院患者さんの人数を10未満で記載しています。
 当院は全体の8割を60以上の患者さんが占めており、その多くが肺癌の手術、化学療法の治療を行っています。
 10歳～30歳の若年層の多くは乳癌の患者さんで、手術や保存的加療(手術をせず、ドレーンを入れたり自然治癒するのを待つ治療)などを行っています。

診断群分類別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

■呼吸器外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
040040X97X10X	肺の悪性腫瘍 手術あり 手術・処置等2 1あり 定義副傷病 なし	224	15.47	18.95	1.79	68.29	
040040X97X00X	肺の悪性腫瘍 手術あり 手術・処置等2 なし	67	8.37	11.51	0.00	68.90	
040200X91X00X	気胸 肺切除術等 手術・ 処置等2 なし 定義副傷病 なし	65	9.86	10.18	3.08	37.38	
040200X99X00X	気胸 手術なし 手術・処 置等2 なし 定義副傷病 なし	32	9.63	9.11	0.00	48.72	
040040X9900XX	肺の悪性腫瘍 手術あり 手術・処置等1 なし 手術 ・処置等2 なし	14	9.71	14.62	14.29	77.50	

当院では、胸に開けた小さな穴に胸腔鏡を用いて、病気の部分を切除したり縫合したりする胸腔鏡手術を積極的に導入しております。
 呼吸器外科で最も多いのは、肺がんの手術症例です。これは従来の開胸手術に比べて比較的小さな創で行える手術のため、創の痛みや大きさ、体へ負担が少なくて回復も早く、入院期間が短くなります。当院では全国平均より平均在院日数が3.48日短くなっており、2番目に多い症例は、1番目の肺がん手術と比較すると、部分切除など比較的切除範囲の小さい手術や、輸血を行う症例になります。こちらも胸腔鏡手術を使用することが多く、全国平均より平均在院日数が3.14日短くなっており、3番目と4番目に多い症例は、気胸という胸膜に穴が開いて呼吸が苦しくなる病気の症例です。3番目の症例は手術を行った症例、4番目の症例は保存的加療(手術をせず、ドレーンを入れたり自然治癒するのを待つ治療)を行った症例です。

■呼吸器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
040040X9908XX	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1 なし 手術 ・処置等2 8あり	538	8.61	10.59	0.37	69.09	
040040X9910XX	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1 あり 手術 ・処置等2 なし	349	2.11	3.34	0.00	70.54	
040040X99040X	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1 なし 手術 ・処置等2 4あり 定義副 傷病 なし	338	9.95	9.59	0.89	68.34	
040040X99090X	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1 なし 手術 ・処置等2 9あり 定義副 傷病 なし	256	5.70	10.20	1.17	68.34	
040040X9905XX	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1 なし 手術 ・処置等2 5あり	225	12.86	20.04	1.33	71.08	

呼吸器内科は、肺がんの化学療法や検査の症例で上位5位までを占めています。
 化学療法の症例は、使用する薬剤や検査内容によって在院日数が変わります。
 特に2番目の症例は、使用する薬剤によって治療期間が異なるため在院日数に差が出やすく、当院の平均在院日数は全国平均よりもやや長くなっており、最も多い症例はアバスタン、サイラムザという血管新生阻害剤を使用した肺がんの治療になります。
 平均在院日数は8.61日で、全国平均在院日数と比べ1.28日短い傾向にあります。
 2番目に多い症例は、気管支炎や肺炎といった病気を入れて治療を受けている患者さん、がんの診断をついたり、がんの種類を調べることを目的としており、当院では1泊2日の入院で行うことが多いです。
 4番目に多い症例は、オプジーブ、キートルーダなどの免疫チェックポイント阻害剤を使用した肺がんの治療が含まれます。比較的短い入院期間での治療が可能のため、当院の平均在院日数は全国平均の半分以下となっております。

初発の5大癌のUICC病期分類並びに再発患者数

	初発					再発	病期分類 基準率(%)	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明			
胃癌	-	-	-	-	-	-	1	8
大腸癌	-	-	-	-	-	-	1	8
乳癌	-	-	-	-	-	-	1	8
肺癌	421	130	497	710	307	400	1	8
肝癌	-	-	-	-	-	-	1	8

※ 1: UICC TNM分類, 2: 癌取り扱い規約

この患者数は疑へ数となっております。
 当院では主に肺癌の患者が307名は肺癌患者数に278名になり、診断前の「疑い」の患者さんや、がんの広がりを調べる前の患者さんを含みます。278名の不明だった患者さんはその後、91名がStage I、26名がStage II、54名がStage III、49名がStage IVと診断され、それぞれの病期、体の状態に合わせた手術・化学療法などの治療を行っています。
 それ以外の64名は、肺癌以外の別の疾患だった患者さん、経過観察を行っている患者さん、来院が中断された患者さんなどが含まれます。

成人市中肺炎の重症度別患者数等

	患者数	平均 在院日数	平均年齢
軽症	-	-	-
中等症	24	18.04	75.71
重症	-	-	-
超重症	-	-	-
不明	-	-	-

10未満未満の症例は(ハイフン)を使用しています。
 重症度は、年齢、脱水、酸素、意識障害、収縮期血圧の状態によって決まります。

脳梗塞の患者数等

発症日から	患者数	平均在院日数	平均年齢	転院率
3日以内	-	-	-	-
その他	-	-	-	-

診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

■呼吸器外科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K514-23	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (肺葉切除または1肺葉を 超えるもの)	166	2.65	11.76	0.80	68.77	
K5131	胸腔鏡下肺切除術(肺葉 切除手術(縦状部分切除に よるもの))	64	4.75	5.89	3.13	37.89	
K514-21	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (部分切除)	64	2.14	5.20	0.00	69.52	
K514-22	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (区域切除)	20	2.30	10.65	0.00	70.05	
K5143	肺悪性腫瘍手術(肺葉切 除又は1肺葉を超えるも の)	19	3.05	13.42	5.26	70.21	

呼吸器外科では胸腔鏡下手術を多く行っております。
 1番目、3番目、4番目の手術が肺がんに対する胸腔鏡下手術になります。
 胸腔鏡下手術は小さな切開創から胸腔鏡を挿入し、対象箇所を切除します。
 開胸手術に比べて、比較的小さな切開のみで行えるため、痛みや体へ負担が少なくて済むのが特徴です。
 切除範囲は大きな順に肺葉切除、区域切除、部分切除となり、これらはがんの進行度や患者様の状態によって決定されます。
 2番目は主に気胸に対して行われる胸腔鏡下手術で、平均年齢は他の手術症例と比較すると若い傾向にあります。

■呼吸器内科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K6113	抗悪性腫瘍剤動脈 静脈 又は静脈内持続注入用補 込薬カテーテル設置(頭頤 部その他に設置した場合)	16	1.69	10.63	6.25	72.13	
K6262	リンパ節摘出術、直径3cm 以上	-	-	-	-	-	

K386	気管切開術	-	-	-	-	-
K5145	肺悪性腫瘍手術・胸腺腫合併切除を伴う肺切除	-	-	-	-	-
K5143	肺悪性腫瘍手術・肺葉切除又は1肺葉を超えるもの	-	-	-	-	-

10症例未満の症例は、(ハイフン)を使用しています。
通常呼吸器内科の医師が手術を行うことは無く、呼吸器外科の医師が手術を行います。
呼吸器内科と呼吸器外科の病棟で転棟することがあるため、呼吸器内科でも手術別患者数等の集計を行っております。
最も多いのが抗がん剤の持続投与が必要な場合などに、血管内に薬剤を注入するための機器を皮膚の下に埋め込む手術です。この手術を行うと、末梢血管のルート確保が困難な場合、何度も針を刺して苦痛が伴うことを避けることができます。手術後、すぐに化学療法を行っているため、平均術後日数が10.63日と長くなっております。

その他(DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率)

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	-	-
		異なる	-	-
180010	敗血症	同一	-	-
		異なる	-	-
180035	その他の真菌感染症	同一	-	-
		異なる	-	-
180040	手術・処置等の合併症	同一	-	-
		異なる	-	-